

平成29年度 農山漁村振興交付金(農泊推進対策)  
事業実施地区 評価一覧

【近畿農政局】

項目	A評価	B評価	C評価	計(地区)
農泊推進事業(人材活用事業)	16	2	3	21
合 計	16	2	3	21

(注)施設整備事業は、事業の開始年度から起算して3年目の年度に評価を行う。

平成29年度 農山漁村振興交付金(農泊推進対策)

1. 事業実施主体 評価一覧

【農泊推進対策】 21件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評価コメント
				H29	H30	H31		
近畿	滋賀県	東近江市	愛のまち農泊推進協議会	●	□		A	事業実施計画に沿って地域で取組が進められており、振興推進計画の目標もすべて達成されていることから、成果を十分上げていると認められる。
近畿	滋賀県	日野町	一般社団法人近江日野交流ネットワーク	●	□		C	インバウンド対応、情報発信ツール整備、日野町の子どもたちの健全育成などに向けて、インバウンド受入に向けたモニターツアー、多言語に特化したパンフレットの作成に取り組んだが、事業の一部について未実施(インバウンド受入農泊家庭の対応力強化における外国語会話教室の開催、日野町の子どもたちの日野町の農泊による育成におけるモニターツアーの開催が未実施)となり、また、事業実績も目標を大きく下回るなど、成果を上げていると認められない。
近畿	京都府	南丹市	美山分散型ホテル協議会	●	□		B	インバウンド受入に向けた戦略立案・マーケティング・分析の実施、協議会メンバーの底上げのレベルアップ、受入体制整備(ホームページ用記事の英文による制作)等に取り組み、事業について未実施(宿泊客のための共同送迎のシステム構築、研修生の受入、体験メニュー開発が未実施)となったものがあつたが、概ねの取組は実施されており、事業実績は目標を下回ったものの、一定程度の成果を上げていると認められる。
				★	☆	◇	-	施設整備事業は3年目に評価
近畿	京都府	南丹市	美山ふるさと株式会社	●	□		A	国内外のエージェント等に対するプロモーション活動、モニターツアーの実施、他言語ホームページの制作、インバウンド受入のためのマニュアルの作成など、計画どおり取組が実施されており、振興推進計画の目標もほぼ達成されていることから、成果を十分上げていると認められる。
近畿	京都府	南丹市	南丹市美山エコツーリズム推進協議会	●	□		B	地域のコンセプトの明確化と共有、地域メディアの構築および情報発信、地域にある「地域の宝」の資源化などに取り組む、研修生受入のため募集を実施したものの応募がなく未実施となったが、概ねの取組は実施されており、振興推進計画の目標もほぼ達成されていることから、一定程度成果を上げていると認められる。
近畿	京都府	南山城村	南山城村体験観光推進協議会	●	□		C	事業実施計画に沿って概ねの取組は実施されているが、事業実績は非常に低調なものとなり目標を大きく下回るなど、成果を上げていると認められない。

(注1)「事業実施段階」の凡例: ソフト対策 ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施済) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施済)  
ハード対策 ☆…交付対象年度(計画) ★…交付対象年度(実施済) ◇…目標年度(計画) ◆…目標年度(実施済)

(注2)「評価」の区分: A…優良 B…良好 C…低調

【農泊推進対策】 21件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評価コメント
				H29	H30	H31		
近畿	京都府	和束町	和束町農泊推進協議会	●	□		A	宿泊・体験プログラムのモニタリングによるニーズ把握、検証、メニュー開発に向けたモニターツアー・体験イベントの開催、普及啓発活動として、大都市部での産地フェアの実施、パンフレットの作成、農泊ポータルサイトの開設など、計画どおり取組が実施されており、振興推進計画の目標も達成されていることから、成果を十分上げていると認められる。
近畿	大阪府	河南町	河南町かうち地区農と自然を守る協議会	●	□		A	オーガニック栽培体験圃場の整備、河南地区の地域資源を有効活用した体験型モニタリングツアーの実施、ホームページの作成、ネット販売システムの構築、研修生の受入などに取り組み、一部の事業(滞在(宿泊)を想定したモニタリングツアー)について未実施となったが、概ねの取組は実施されており、事業実績は一部目標を下回ったものの、中核法人となる農業生産法人が設立され、また、企業やNPO法人との連携等も含め円滑に事業を推進する体制が確立され、成果を上げていると認められる。
近畿	大阪府	田尻町	田尻漁業協同組合	★		◇	-	施設整備事業は3年目に評価
近畿	兵庫県	姫路市	家島諸島都市漁村交流推進協議会	●	□		A	受入体制の整備、地域資源を活かした体験型観光などのさらなる充実と実施、誘客に向けた情報発信と宿泊体験プランの実施、土産商品の開発・販売、事業全体の推進サポートとして専門家の招聘など、計画どおり取組が実施されており、振興推進計画の目標も達成されていることから、成果を十分上げていると認められる。
近畿	兵庫県	豊岡市	合橋まちおこし協議会	●	□		A	拠点施設運営の安定化や体験プログラムメニュー開発及び提供のために、ホームページの作成、パンフレットの作成、観光協会等HPでのバナー広告、ファミトリップ、先進地視察、宿泊者に提供するための田舎料理の研修などに取り組み、研修事業の一部(衛生講習会等)について未実施となったが、概ねの取組は実施されており、振興推進計画の目標もほぼ達成されていることから、成果を十分上げていると認められる。
近畿	兵庫県	篠山市	地域資産活用協議会	●	□		A	インバウンド戦略を展開するための体制整備・企画、農泊および体験事業運営体制の整備、農山漁村の魅力向上及びマーケティング、農泊について地域の合意形成、コンセプト・事業計画策定、それらに伴う人材活用事業の取り組みの実施など、計画どおり取組が実施されており、事業実績は目標を下回ったものの、中核法人を中心とした取組体制が機能し、成果を上げていると認められる。
				★	☆	◇	-	施設整備事業は3年目に評価
近畿	兵庫県	丹波市	住み継ぐたんば協議会	●	□		A	中間支援組織(ビークル)の組成、古民家等を活用した滞在型施設整備プランの策定、体験プログラムの企画・立案・実施、研修生の受入など、計画どおり取組が実施されており、振興推進計画の目標もほぼ達成されていることから、成果を十分上げていると認められる。

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ソフト対策 ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施済) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施済)  
ハード対策 ☆…交付対象年度(計画) ★…交付対象年度(実施済) ◇…目標年度(計画) ◆…目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の区分: A…優良 B…良好 C…低調

【農泊推進対策】 21件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評価コメント
				H29	H30	H31		
近畿	兵庫県	朝来市	和田山・山東農泊ネットワーク協議会	●	□		A	古民家再生事業スキーム策定、施設運営計画策定、地域資源を活用した体験メニューの開発、先進地視察、情報発信記事作成など、竹田地区での施設整備事業と連動して計画どおり取組が実施されており、振興推進計画の目標もほぼ達成されていることから、成果を十分上げていると認められる。
				★		◇	-	施設整備事業は3年目に評価
近畿	奈良県	吉野町	中荘地区まちづくり協議会	●	□		A	地域資源及びその商品の磨き上げ(高付加価値化の取組)、地域資源(観光)を活用した人の呼び込み(交流人口の増加)、地域資源(農作物)の商品開発、情報発信、販路開拓などに取り組み、ホームページや地域マップの作成が遅れたことにより情報発信が遅れたが、概ね計画どおり取組が実施されており、振興推進計画の目標も達成されていることから、成果を十分上げていると認められる。
近畿	奈良県	明日香村	明日香交流人口促進協議会	●	□		A	取組体制の構築・運営、先進地視察、モニターツアー、農泊ビジネス化の戦略策定・実行、体験プログラムの整備、農泊プロモーションツール作成、農泊受入に向けたセミナー開催、営業活動推進、人材活用事業などに取り組み、一部の事業(農泊等運営管理システム構築、農泊ターゲット国への営業、ファムトリップの実施、宿泊施設の整備に関する戦略検討)について未実施となったが、概ねの取組は実施されており、振興推進計画の目標もほぼ達成されていることから、成果を十分上げていると認められる。
近畿	奈良県	山添村	やまと観光推進協議会	●	□		C	一部変更や未実施となった事業はあったものの事業実施計画に沿って概ねの取組は実施されているが、事業実績は非常に低調なものとなるなど、成果を上げていると認められない。
近畿	和歌山県	田辺市	特定非営利活動法人熊野本宮	●	□		A	合意形成、マインドフルタウン理解促進、農泊受入体制整備、プログラム開発、プロモーション、マーケティングなどに取り組み、一部の事業(農泊・民泊事業の受入マニュアル作成、Facebook広告配信)について未実施となったが、概ねの取組は実施されており、事業実績は目標を下回ったものの、中核法人を中心とした取組体制が機能し、成果を上げていると認められる。
近畿	和歌山県	紀の川市	紀の里農業協同組合	●	□		A	受入体制の整備、多様なコンテンツを活用した滞在型観光ビジネスの確立、地域素材の磨き上げによる観光コンテンツの拡大、広報・PR活動、それらに伴う人材活用事業に取り組み、事業の一部(地域素材を活かした高付加価値商品づくり)について未実施となったが、概ねの取組は実施されており、事業実績は目標を下回ったものの、行政、その他の法人、観光事業組織等とも連携した取組体制を確立し、地域においても合意形成がはかられ、成果を上げていると認められる。
近畿	和歌山県	田辺市	株式会社秋津野	●	□		A	ホームページ・パンフレット・館内表示板の多言語化、外国人向け周遊・滞在プログラムの開発、熊野古道早駆道ウォークイベントの開催、農泊モニターツアーの実施など、計画どおり取組が実施されており、振興推進計画の目標も達成されていることから、成果を十分上げていると認められる。

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ソフト対策 ○・・・交付対象年度(計画) ●・・・交付対象年度(実施済) □・・・目標年度(計画) ■・・・目標年度(実施済)  
ハード対策 ☆・・・交付対象年度(計画) ★・・・交付対象年度(実施済) ◇・・・目標年度(計画) ◆・・・目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の区分: A・・・優良 B・・・良好 C・・・低調

【農泊推進対策】 21件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評価コメント
				H29	H30	H31		
近畿	和歌山県	串本町	串本町古民家活用協議会	●	□		A	受入体制の整備、地域の理解促進、先進地視察研修、地域資源の発掘と広域ネットワーク化、地域の魅力発信など、計画どおり取組が実施されていることから、成果を十分上げていると認められる。 施設整備事業は3年目に評価
				★	☆	◇	-	
近畿	和歌山県	太地町	太地町漁業協同組合	●	□		A	太地町漁業協同組合を核とした関係者による体制づくり、くじらと自然環境資源を活用した体験プログラム企画・運営計画の策定、体験プログラムの試験運営(実証実験)、太地町内の既存ストック活用可能性調査、森浦湾くじらの海 自然・いきもの暦の作成、先進地視察研修など、計画どおり取組が実施されており、振興推進計画の目標もほぼ達成されていることから、成果を十分上げていると認められる。

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ソフト対策 ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施済) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施済)  
ハード対策 ☆…交付対象年度(計画) ★…交付対象年度(実施済) ◇…目標年度(計画) ◆…目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の区分: A…優良 B…良好 C…低調

## 2. 平成29年度農山漁村振興交付金（農泊推進対策）の評価概要

本交付金の事業実施の評価は、29年度に採択した21地区を対象とし、事業実施主体から提出のあった自己評価書等をもとに、有識者で構成する評価委員会による意見聴取を行った上で評価を実施した。

その結果、農村振興計画及び事業実施計画に基づく取組がほぼ実施され、成果を十分上げていると認められる評価「A」が16地区で全体の約76%、成果を上げていると認められる評価「B」が2地区で全体の約9%、成果を上げていると認められない評価「C」が3地区で全体の14%となっており、全体の約85%の地区においては、本交付金を活用した取組により、都市と農山漁村の共生・対流の推進が図られるなど、一定の成果が発現されていると認められた。

しかし、「C」評価とされた地区においては、農村振興計画に定められた目標の達成状況が低調であることから、目標達成に至るよう重点的指導や助言等が必要である。

評価委員会委員からは、

①「A」及び「B」評価の地区においては、農山漁村振興計画に定められた目標の達成状況が成果を上げていると認められることから、今後とも発展的な取組がなされるよう期待する。

②目標の設定に際しては、適切な数値となるよう、農山漁村振興計画の作成時や事業評価後に行政から提案や助言等を行う事も必要ではないか。

③「C」評価の事業実施主体においては、評価結果を反省して頂き、何が悪かったのかをしっかりとフィードバックして、次年度以降の活動に繋げて欲しいとの意見が出された。

## 3. 平成30年度農村振興関係交付金評価委員会の議事概要

### ○第1回評価委員会(事前説明)

1. 日 時:平成30年7月30日(月)10:30~10:45

2. 場 所:紀の里農業協同組合事務室

3. 出席者:

・評価委員会委員

小田滋晃 京都大学大学院農学研究科教授

伊原和彦 ETC教育旅行コンサルタント代表

・評価委員会事務局

近畿農政局担当者2名

4. 議事要旨

1)平成29年度近畿農政局農村振興関係交付金の評価について

平成29年度近畿農政局農村振興関係交付金評価対象地区、評価基準等を確認。

2)今後の予定について

第2回評価委員会(現地調査)、第3回評価委員会(意見聴取)を行い、その後、評価の概要等をホームページにて公開することを確認。

○第2回評価委員会(現地調査)

1. 紀の里農業協同組合(和歌山県紀の川市)

1) 日 時:平成30年7月30日(月)10:45~12:20

2) 場 所:紀の里農業協同組合事務室

3) 出席者:

・評価委員会委員

小田滋晃 京都大学大学院農学研究科教授

伊原和彦 ETC教育旅行コンサルタント代表

・事業実施主体

紀の里農業協同組合 担当者(事務局)

・評価委員会事務局

近畿農政局担当者2名

4) 委員の主な意見

・体験プログラムだけでなく宿泊プログラムを開発し単価を上げていくことが重要。

・紀の川市へアクセスするためのインフラはかなり整備されているので、大阪府だけでなく奈良県も視野にPRをしてはどうか。等

2. 社会福祉法人きびコスモス会(和歌山県有田川町)

1) 日 時:平成30年7月30日(月)14:20~16:20

2) 場 所:社会福祉法人きびコスモス会事務室

3) 出席者:

・評価委員会委員

小田滋晃 京都大学大学院農学研究科教授

伊原和彦 ETC教育旅行コンサルタント代表

・事業実施主体

社会福祉法人きびコスモス会 理事長 ほか2名(事務局等)

・評価委員会事務局

近畿農政局担当者2名

4) 委員の主な意見

・栽培に取り組んでいる高付加価値農産物を、有田川町の特産品として売り出せば集客に繋がるのでは。

・冷凍乾燥加工フルーツも出来がいいので、PRして行けば売上げ増に繋がり、障がい者の賃金向上へと繋がるのでは。等

### ○第3回評価委員会

1. 日 時:平成30年8月20日(月)10:00~11:30

2. 場 所:近畿農政局第3会議室

3. 出席者:

・評価委員会委員

小田滋晃

京都大学大学院農学研究科教授

平山奈央子

滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科助教

伊原和彦

E T C教育旅行コンサルタント代表

・評価委員会事務局

近畿農政局担当者8名

4. 議事要旨

1) 委員長の選任

・評価委員会設置規程第5条に基づき、委員の互選の結果、委員長に小田委員が選任された。

2) 第2回評価委員会(現地調査)の概要について

・第2回評価委員会(現地調査)の概要について確認。

3) 事業評価について

・平成30年度に事業を実施した57地区から報告された自己評価等について、各委員が評価及び検証した内容を確認し、評価委員会としての評価(総合評価「A」41地区、「B」13地区、「C」3地区)を決定。

・評価が「C」となった3地区を除く全地区においては、一定の成果が発現されており、共生・対流促進計画及び農山漁村振興計画に定められた目標を達成していると認められることを確認。

・評価「C」となった地区においては、農山漁村振興計画に定められた目標の達成状況が低調であることから、目標達成に向けて重点的に指導する必要があることを確認。

・今後とも、より一層公正かつ確かな評価がなされるよう、数値目標の達成状況のみでなく、プロセス評価の導入や評価書の実施体制の項目に、記載すべき事項の例示など、検討、改善を継続していくことを期待。

4) 今後の予定について

・委員長から近畿農政局長に対して本日決定した評価内容の報告を行い、その後、農政局から本省へ報告するとともに評価の概要等をホームページにて公開することを確認。また、評価が低調な事業実施主体に対しては、重点的指導を実施することを確認。